

令和5年度 鳥取大学入学者選抜試験問題

(学校推薦型選抜Ⅱ)

小論文

(医学部 保健学科)

(注意)

1. 問題冊子は、指示があるまで開かないこと。
2. 問題は2ページ、解答用紙は1枚である。指示があってから確認すること。
3. 解答はすべて解答用紙の指定のところに記入すること。
4. 下書きをする場合は、問題冊子の余白を利用してよろしい。
5. 問題冊子は持ち帰ること。
6. 解答用紙は持ち帰ってはならない。
7. 解答用紙の上の欄に受験番号を記入すること。

令和5年度 鳥取大学医学部保健学科入学者選抜試験
(学校推薦型選抜Ⅱ)

問題 次の課題文を読んで後の問いに答えなさい。

クリストファー・ヒーリー先生はロサンゼルスの下町の公立高校の数学(幾何)の教諭である。四年間ほど通常の授業をやっていたが、1987年以來、徹底した「教えない授業」をするようになった。

ヒーリー先生の幾何の授業は五時限目(一日の最終)にあり、生徒は学年を超えて選択できる。(中略)したがって、数学の得意な生徒もいれば、まったく不得意な生徒もいるし、なかには学校に適應できずカウンセラーのセラピー(心理療法)を受けていて、理由もわからず「カウンセラーから出ろといわれた」というだけでしぶしぶ受講するにいたったという生徒もいる。大学受験を志望している者もいるが、かなりの生徒は高卒で社会に出る気である。

ヒーリー学級の初日は、こんな風にはじまる。生徒が教室に入ると、入り口で一組のトランプからカードを一枚任意に取らされる。カードの数字(エース、2、3、4など)ごとに一つのテーブルが割り当てられ、結果的に四人一組のグループが構成される。それぞれのグループには「探求シート」が渡される。「探求シート」は一番上に一行、幾何学のごく基本的な命題が一つだけ記されており、それについてグループで議論して、どんなことでもいいから、大切だとグループで判断したことをその下の余白にいくつでもいいから書くのがその日の作業だ、というわけである。

ヒーリー学級では教科書は一切ない。むしろ、生徒に彼ら独自の「教科書」をつくらせるのである。教室にはコンピュータが一台あって、そこには「ジオメトリック・サポーター」というソフトと簡単なマニュアルが備わっているが、それをどう使おうとまったく自由である。(中略)これについて、教師がとくに説明するとか、使うように勧めるということは一切しなかったが、興味をもつ生徒が勝手にいじって使い方をマスターし、それを他の生徒に教えたりしたので、いつのまにかいつでも誰でもが必要に応じて利用できるようになったらしい。

生徒に渡される「探求シート」に記される命題というのは、次のようなものである。

- 平行線は決して交わらない。
- 直線は180度の開きをもつ。
- 三角形の内角の和は180度である。

実際、ヒーリー先生が学期を通して探求シートに示した、教師側から与えた事実としては、これら三つだけである。あとはすべて、生徒たちが探求シートに書き込んだことから選んで、次回の探求シートに記される。つまり、探求シートには、クラスでさらなる探求をしたいことを生徒が書き込み、それを次回以降ではクラスの討論で引

き継いでいく、という形で授業が進められるのである。

出典：佐伯胖. 『「学ぶ」ということの意味』 (岩波書店 1995) p.22～p.25
より抜粋・一部改変。

問. この文章を読み、下線部の「教えない授業」で子どもたちが何を学ぶことができるのか、また、「学ぶということの意味」についてあなたの考えを 600 字以内で述べなさい。